

令和5年1月12日開催 議員協議会での意見について

資料3

NO	頁数等	質疑等	答弁内容
1	計画全般	空港を有する本市において、空の玄関口として空路の考え方もあると思われるが、地域公共交通計画における空路の考え方について。	<p>空路の利用については、仙台空港が所在する本市にとって大事な視点であると捉えているが、今回策定する計画については、市民の移動を支える交通モードの1として空路を他の交通モードと同列で考えるには移動範囲が大きすぎることで、空路を地域公共交通として利用する市民は限定的であると捉えていることから、今回空路は含めていない。</p> <p>しかし、空路を利用して来訪するインバウンドの方への対応は必要と捉えており、観光誘客施設へのアクセス改善等、観光面での施策として取り組んでまいりたい。</p>
2	P45・P49・P.74～78	モビリティマネジメントの取組を実施する中で、積極的に情報を出し、市民意見の取り込みも行う等、双方向的な取り組みを行うことでより良いものになると思われるが、さらに広範に市民の声を聞くような取組は考えているか。	<p>双方向での情報交換につきましては、今後モビリティマネジメント等を通して市民と情報交換を行う予定としている。</p> <p>来年度以降、学校や住民、事業者等様々な方面に向けて実施することを検討している。今後皆様からご意見等を多く頂けるよう機会を設けてまいりたい。</p>
3	【資料1 計画本編】 P.52～54 施策1なとりん号の再編	<p>今後デマンド交通の導入等新たな取組を実施するところであるが、市民にとっては車が利用できる状態であれば公共交通の不便さ等に関心を待たないが、車が利用できなくなって初めて公共交通の不便さ等を感じるようになる。</p> <p>そのため、今後導入するデマンド交通について、多くの方に利用してもらいデータを収集しないと便利なのか不便なのかも分からず、公共交通のことについて自分事として考える契機とはならない。市民に興味・関心をもってもらい、積極的に利用してもらえるよう取組を強化すること。</p>	<p>デマンド交通の実証実験については、今現在防災安全課で詳細検討を進めているところであるが、デマンド交通の利用者を増やすための周知・啓発については、地域公共交通計画の施策であるモビリティマネジメントの取組の中で、より積極的に公共交通を利用しましょうという機運を高めるため利用促進の取組を進めていく予定である。</p> <p>また、実証実験についても、実際に利用されるであろう日中の高齢者・障がい者等にも視点をあて、多くの方にこれからやろうとしていること、公共交通の在り方について関心を持ってもらえるような取組も同時進行させながら実証実験を行っていきたい。</p>
4	【資料1 計画本編】 P.52～54 施策1なとりん号の再編	なとりん号の運行見直しに関する住民説明会の実施予定について。	<p>なとりん号見直し及び、デマンド交通導入については、別途議員協議会(令和5年2月3日開催)の場を設けさせていただき、説明させて頂く。その後、全11公民館を回る日程で住民説明会を開催する予定としている。</p> <p>その中で、住民の皆様から頂いたご意見・ご要望を踏まえ、再度内容を修正・改善し、新年度になるがもう一度住民の皆様にご説明を行う予定としている。</p>